

令和6年（2024年）12月定例議会本会議（12月12日）

環境教育常任委員長報告（所管事務調査・他都市調査）

ただいま議題となっております行政部門別常任委員会の所管事務調査について、環境教育常任委員会における調査の経過と結果を報告します。

委員会は、5月16日、今年度の他都市調査の日程を決定し、6月14日、各委員から提案があった調査テーマについて協議を行いました。

その結果、9月5日、今年度の他都市調査として、神奈川県川崎市の「環境問題をテーマに市民が学べる施設」について、大阪府泉大津市の「体育館の空調設備」について、及び福岡県北九州市の「教職員の勤務時間管理の徹底による業務改善」について、それぞれ視察することと決定し、10月21日から23日までの3日間で視察を行いました。

また、これを受け、12月4日、視察した内容について委員間で意見交換を行いました。

意見交換の主な内容を申し上げますと、まず、川崎市の「環境問題をテーマに市民が学べる施設」については、ごみ焼却施設と資源

化処理施設に併設された王禅寺エコ暮らし環境館を視察しました。

ここでは、資源循環・温暖化対策・自然共生といった多様な環境問題について、一つの部局で所管し、資源循環型社会の構築に向けて一体的に取り組んでいる点が参考になったこと、また、施設の空きスペースを活用し、費用をかけずに工夫して環境問題をテーマにした展示を行う重要性については、委員の意見が一致しました。

次に、泉大津市では、総合体育館の床輻射方式の空調設備を視察しました。床下からの熱による温度管理を行うこの全空気式床輻射冷暖房システムは、気流が発生しないことから感染症対策として換気を行っても室内温度の変化に影響が少なく、風の影響を受ける競技においても有用であるものです。このため、災害時避難所及び学校教育環境の充実としての観点から大変参考になったという意見がありました。そこで、「導入コストや機器設置場所の課題はあるものの、空調設備の導入検討の際には、同システムの方式もあるということを委員会として執行部に希望意見を付したい。」という提案があり、協議を行った結果、提案のとおり決定しました。

次に、北九州市における「教職員の勤務時間管理の徹底による業務改善」については、教職員一人ひとりのマインドセットや意識改

革が必要ではあるが、教職員だけではなく、学校の業務改善について保護者や地域の理解を求める取組を行っていた点が大変参考になったという意見があり、また、業務改善の取組としての自動採点システムの導入が採点業務時間の大幅短縮に有用と思われることから、取組の効果を注視していく必要性について、委員の意見が一致しました。

最後に、今回の所管事務調査の結果、本委員会としてまとまりました希望意見を申し上げ、本調査を終了します。

・今後、市立学校の体育館や市内運動施設における空調設備の設置・床の張替工事の際には、全空気式床輻射冷暖房システムの導入を選択肢の一つとして検討するよう努められたい。

以上で報告を終わります。